

2015年3月期第1四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2015年3月期第1四半期決算の業績について】

Q：金融 IT ソリューションセグメントで発生した不採算案件 2 件は、どのような分野の案件か？

A：金融関連分野でも従来から得意としている分野ではなく、新規顧客の案件もしくはこれまであまり経験のなかった新しい分野のシステム構築案件である。

Q：IT 基盤サービスセグメントの不採算案件については、前期も追加コストを計上しているが、第 2 四半期以降も追加コストが発生するのではないかと？

A：現時点で想定される追加コストを全て処理した。

Q：複数の不採算案件が発生した一方で、コンサルティング、産業 IT ソリューションの各セグメントは前年同期比で増収増益と好調であるが、どのような要因か？

A：コンサルティングは、増収に伴う稼働率の上昇により営業利益率が向上しやすい傾向にある。また、産業 IT ソリューションは、ここ数年、新規顧客獲得に伴うコストの増加により営業利益率は低い水準にとどまっていたが、採算性の向上で収益性が改善している。

Q：販管費は前年同期比 1.2%増と低い伸びになっている要因は？

A：株式会社だいこう証券ビジネスの連結子会社化など、事業拡大に伴う販管費の増加があった一方、第 1 四半期の減益に連動して賞与引当金繰入が減少したため。

Q：負ののれん発生益等（約 17 億円）は一時的なものか？

A：その通りである。

Q：自社株買いを検討しているか？

A：現時点で具体的に発表できる内容はないが、常にいろいろな選択肢を検討している。

【業績予想の見直しについて】

Q：売上高と営業利益の予想を据え置いたが、どのように収益性を高め第 1 四半期で発生した不採算をカバーしていくのか？

A：不採算案件以外の部分については、売上高・収益性ともに良い状況である。追加の不採算コストを抑制し、この良いファクターを継続させることで、通期の目標達成を目指す。

・本資料は、2015年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

Q: 2016年3月期(来期)は、今回発生した不採算案件約70億円の反動により利益が増加し、15%以上の高い営業利益率が期待できるのではないかと?

A: 先行投資を全くおこなわなければ短期的には営業利益率の上昇も可能かもしれないが、中長期的な成長のために、多少収益性が低くとも新しい分野でのチャレンジの部分が続けていく方針である。中長期的には営業利益率13%以上を目標としている。

以上

・本資料は、2015年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。